

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 5 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	9070102158		
法人名	ファミリーケア有限会社		
事業所名	グループホームおおぞら		
所在地	栃木県宇都宮市上欠町1253-7 (電話) 028-648-4195		
評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 25,000円 おむつ代他 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鷲谷病院、岩本歯科
---------	-----------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念は「笑顔の共有」であり、職員は理念に共感し自身が笑顔でいられるよう心がけている。利用者が笑顔で生き活きと、また穏やかに過ごせるよう、気遣いながら支援する職員の姿は、理念を体現しているといえる。アセスメントをセンター方式に変えたことで、利用者の身体状況のみならず生活歴、価値観、趣味などの把握が出来る、ケアの振り返りや多角的見方が可能になったので、利用者にとってより厚みのある介護計画の策定が期待できる。入院して食事摂取ができず寝たきりに近い状態になった利用者が、退院後のホームでの柔軟な支援によって普通食に戻り、歩くことが出来るようになった。この事例は、利用者の持てる力を蘇らせるためのケアの実践がなされていることを示している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善課題となっていた、書類の整理・整備や建物まわりの整備に取り組んだ。特に、フェースシート、アセスメント表、介護計画、サービス担当者会議の記録、ケース記録が利用者別にファイルされたことや職員全員で作り上げた介護サービス業務マニュアルの整備が進んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が記入したものを管理者がまとめ、さらに会議にかけて職員の意見を取り入れた。自己評価への取り組みを通して、職員間のサービス実施に対する意思確認の機会にもなっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームの運営状況や評価結果、行事予定等の報告の他、研修や日頃の情報収集から得た認知症ケアに関する知識を提示し、話し合いの材料としている。また、家族からのサービスに関する要望が出された場合は、過去の事例や諸制度と照らし合わせて取り入れている。事例としては体力低下を防ぐリハビリマッサージや体操の実施がある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは毎月請求書の送付の際に、写真集にコメントを添えたものを送っている。ほとんどの家族が介護計画の説明がしっかりなされていると答えており、家族との関係づくりには力を入れていることがうかがえる。重要事項説明書にホームの苦情受付窓口と県の公的な相談窓口の連絡先を記載し利用を促している。苦情受付箱(目安箱)も運営推進会議等で検討されたが、効果が見込めないために設置を見合わせた経緯がある。家族からの意見・要望についてはその都度検討し、改善している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは住宅団地に隣接しており、天気の良い日は散歩に出ることが多く、地域住民とは挨拶を交わす間柄となっている。さらに、地域の子どもが下校後ホームに遊びに来てホームとともに育つ事例や、公園で開催される祭りへの参加など、地域との交流を示す事例がある。ホームとしては認知症高齢者支援の理解や知識の普及のための講座などを実施したいと考えている。地域包括支援センターや介護相談員などの協力を得て、是非取り組んでいきたい。

2. 評価結果(詳細)

 は、重点項目

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当初より「笑顔の共有」を理念として掲げ、利用者 と職員が常に笑顔を交わし合うようなホームづくりを心 がけている。その笑顔に満ちたホームのあり方を通し て、地域の認知症への理解がすすむようにしたいと考 えている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向け て日々取り組んでいる	職員は胸の名札にピンク色のニコニコマークシールを 貼り、それを見ることによって理念が定着するよう取り 組んでいる。職員の気遣いによって会話や歌声、笑い 声が聞こえるホームとなっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、 自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、 地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅団地に隣接しており、近くには公園があ るので、天気の良い日は散歩に出ることが多く、地域住 民とは挨拶を交わす間柄となっている。ホームの存在 は少しずつ知られてきているが、自治会への参加や積 極的な関わりは今のところ実現していない。		地域の子どもが下校後ホームに遊びに来てホームととも に育つ事例や、公園で開催される祭りへの参加など、地 域との交流を示す事例がある。ホームとしては認知症高 齢者支援の理解や知識の普及のための講座などを実施 したいと考えている。地域包括支援センターや介護相談 員などの協力を得て、是非取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部 評価を実施する意義を理解し、評価を活かして 具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が記入したものを管理者がまと め、さらに会議にかけて職員の意見を取り入れた。自 己評価への取り組みを通して、職員間のサービス実施 に対する意思確認の機会にもなった。前回の外部評価 で改善課題となっていた、書類の整理・整備や建物 まわりの整備が進んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの運営状況や評価結果、行事予定等の報告の他、研修や日頃の情報収集から得た認知症ケアに関する知識を提示し、話し合いの材料としている。また、家族からのサービスに関する要望が出された場合は、過去の事例や諸制度と照らし合わせて取り入れている。事例としては体力低下を防ぐリハビリマッサージや体操の実施がある。		介護相談員がホームの実情をよく把握し、運営推進会議で有用な発言をしてくれるので、ホームでは推進会議とは別に介護相談員と利用者、家族の話し合いが定期的に来ればよいと考えている。可能性に期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者は出席しないが、地域包括支援センター職員や市の介護相談員が参加している。年に1回、事業者と市の職員、介護相談員が三者会議を行い、情報交換をしている。ホーム管理者は三者会議がより実りのあるものになりたいと考えている。		ホームの管理者は、他の事業者や行政担当者との会議がサービスの質の向上を目指した、内容の濃いものになりたいと考えている。その方向で提案・実践がなされるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月請求書の送付の際に、利用者個人の生活ぶりが分かる写真集にコメントを添えたものを送っている。運営推進会議への参加を促し、行事に誘ったりして直接話し合う機会を多くつくることや、ほとんどの家族が介護計画の説明がしっかりなされていると答えているなど、家族との関係づくりには力を入れている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にはホームの苦情受付窓口と県運営適正化委員会、国民健康保険連合会の連絡先を記載し、これらの相談窓口が利用できることを知らせている。苦情受付箱(目安箱)も運営推進会議等で検討されたが、利用が見込めないために設置を見合わせた経緯がある。家族からの意見・要望についてはその都度検討し、改善している。		地域密着型サービスにおいては、相談窓口に関して、宇都宮市の福祉担当課の連絡先も重要事項説明書に記載することが求められる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家庭の事情や出産育児などで離職する職員があり、ホーム内でお別れ会を開いて利用者が職員に別れを惜しむ機会をつくっている。新しい職員が入った場合、ベテラン職員と新人が組むようシフトを工夫するとともに、職員が作成した詳細な介護業務マニュアルを用いて、介護サービスに違いがでないよう取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>近隣で開催する研修会の一覧表を事務室内に掲示し、希望する職員を参加させている。最近ではターミナルケアや認知症の新しいケアについての研修を受講し会議や運営推進会議で報告し情報を共有している。しかし、シフトの関係で思うようには参加できないことや、職員の経験度に応じた適切な研修プログラムの選択が県内では出来ないのが課題である。</p>		<p>職員はより実践的な知識と工夫を学びたいとして、他のグループホームの見学や実務研修を望んでいる。実現を期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム協議会の集まりに職員も交代で参加し、講義を聴いたり、グループワークで情報交換をしている。また、いくつかのグループホームと勉強会を開催して、ケアプラン作成などのサービスの質の向上を目指したテーマを設け学び合っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所が決まったら本人と家族と話し合っ、利用者の特徴を事前に把握し、ホームでは積極的に声かけや話しをしたり、時にはスキンシップをしながらのコミュニケーションをとって、安心感を持ってホームの環境に馴染んでもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は事業所の理念を念頭に、利用者に楽しく穏やかに過ごして欲しいと、一緒に笑ったり楽しんだり、共感あって生活していきたいと考えている。利用者からは、調理や掃除の仕方を教わったり、落ち込んでいると励まされたり、時には悩みを聞いてもらうなど、支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでのアセスメントが身体状況の把握に偏っていたため、より一層利用者の生活歴や価値観、趣味などが把握できるようセンター方式を利用し始めた。</p>		<p>家族に協力を求めて情報を得たり、職員の多角的な意見を収集することによって、介護計画に厚みができることが期待される。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて各目標の評価を行い、利用者や家族の意向や要望を取り入れ、さらにケアカンファレンスを実施して職員の多角的な意見を聞いた上で介護計画が作成される。毎月の職員会議では利用者一人ひとりについて、情報の交換が行われる。また、計画作成担当者は現場でケアにも当たっており、利用者の日々の状況をよく把握して計画作成に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個人別ファイルの表紙に介護認定期間を表示し、計画的に介護計画の見直しができるよう工夫している。身体的な状況が大きく変化した場合などは、その時点で計画の見直しをしている。骨折入院して退院した時の計画変更の事例がある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院中、食事が流動食となり歩けない状況になった利用者が退院しホームで段階を追って食事はとろみ食、刻み食、普通食へ、歩行は歩行器、4点杖使用から歩けるようになった。また、持病が悪化し入院による混乱が予想された利用者に対して、家族、医師と話し合い入院でなく通院治療の支援をした。利用者が入院した場合には職員が見舞い家族、医師と早期退院に向けた話し合いをするなど柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族の付き添いで通院している利用者が多いが、家族が付き添えない場合は職員が受診支援をしている。入院が必要でかかりつけ医で対応困難な場合は、入院可能な病院を紹介している。歯科治療通院が難しい利用者が訪問歯科診療により、麺類等の食事摂取がスムーズになった事例がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は訪問診療、訪問看護の支援が得られないのでホームでの看取りは行っていないが、「看取り」や「ホスピスケア」などの研修を受けて情報収集をしている。アセスメント(センター方式シート)で利用者の終末期についての意志確認をしてある家族もいる。また運営推進会議で家族から重度化した場合やターミナルケアについての質問が出ることもあり、ホームの現状、家族の考えなどについてその都度確認している。		重度化した利用者への医療を家族、病院と相談してホームでの看取りとはならなかったが最期を病院で見送ったことがある。在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションの協力があれば連携して重度化した場合や看取りも可能になると考えているので、今後も職員、家族、医師、看護師などと話し合いの機会をもたれることを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導は他の利用者のいる前では直接言わないよう、入浴では利用者ができるだけ羞恥心を持たないように声かけをしている。プライバシーを重んじて夜間の居室見廻りはトイレ誘導以外は中まで入らず、廊下からドアを少し開けて利用者の様子を確認している。希望でドア鍵を設置している。職員は親近感のあまり言葉遣いが崩れすぎて利用者に対して失礼にならないよう気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋にいたい人は部屋で過ごし、テレビを自由に見たり、家事が好きな人は調理や配膳、片付けの手伝いなどそれぞれのペースで過ごしている。身体的症状により、こもりがち利用者へは声をかけてリビングで他の人と過ごせるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りから買い物、調理、盛り付け、配膳、片付けまでの一連の流れを利用者の希望、意思や気持ちを大切にして進め、職員も全員一緒にその日の料理、食材、調理の時の出来事など話題に楽しく食事をしていった。職員が利用者から梅干や白菜の漬物、料理や昔の行事食を教えてもらうことも度々ある。毎月、好きな洋服を着て出かける外食の日は利用者の楽しみとなっている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望が多い夕方からの入浴に対応している。一人浴を希望し介助を必要としない人は一人で入浴している。入浴剤を使ったり、冬はゆず湯で季節を楽しんでいる。入浴を拒む利用者へは、お茶やコーヒーなどを飲み気分を変えてから再び声かけをするとスムーズに入浴されることもあることから、声かけの雰囲気やタイミングを工夫している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>アセスメント(センター方式)や日々のかかわりの中から得た利用者の生活歴、経験した仕事、趣味などを活かし、力に応じて、布団たたみ・敷き、掃除、洗濯物干し、お茶入れ、漬物つけ、盛りつけ、配膳を担ってもらい、その時必ず感謝の言葉を伝えている。裁縫が得意な利用者は雑巾縫いをしてホ-ム使用するほかに小学校、保育園に寄付して喜ばれている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩は毎日、買い物は週2回順番で出かけている。ガイドヘルパーを利用して出かける利用者、調査訪問時には家族と一緒に花見に出かける利用者がいた。お盆、墓参り、ふるさと訪問、知人訪問など計画しての外出支援は行われているが、職員数により急な買い物や外食、ドライブなど、急なその日の個別の外出支援は難しい場合がある。</p>		<p>職員が午前中は3人体制となる時間帯もあるので、散歩に限らず利用者のその日の希望に沿った外出支援を試みることも期待される。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関に鍵はかけていないが、ホーム前が車道のため危険防止に内扉に簡易な鍵をかけている。このことは、家族の了解を得ている。また利用者が外出しそうな様子があれば止めずに一緒に行ったり、後から見守るなど安全面に配慮している。</p>		<p>簡易な鍵ではあるが自由に外に出られないことがもたらす利用者の心理的なデメリットが考えられ職員も鍵をかけることの弊害を理解している。事務所・リビング・厨房から玄関と内扉は見通せるので、見守り方法の徹底、利用者ひとり一人の外出傾向の把握、直接道路へ出ないような外周りの工夫をすることなどにより、内扉の施錠の必要性について再度検討してほしい。</p>
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災対応マニュアルがあり年1回消防署の協力により避難訓練をしている。訓練には近所の人も加わり、非常通報先に登録されている。職員は全員が救命救急講習を受け応急手当、人工呼吸法を学んでいる。事務所には消防署と直結している自動通報装置が設置されている。直近の火災避難訓練は家族へメールで発生の擬似情報を流して行われた。</p>		<p>避難訓練は年1回行われているが、夜勤は一人体制で職員の不安が大きいので、夜勤の一人体制を想定して訓練を繰り返し行うなどして、職員だけの誘導の限界を確認し具体的な対策をたてておくことが望まれる。周囲は住宅街であり、近隣の協力拡大を努力されているので、今後は、警察署、消防署などとも連携すると同時に、運営推進会議で呼びかけるなど更に地域住民の協力体制を築くことを期待する。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は1日1200calを目安とし、水分はおやつときの飲み物、食事の汁物(スープ、みそ汁など)、お茶などで1日1.2Lを目安とし、ひとり一人のおおまかな摂取量を把握している。かかりつけ医から栄養状態のアドバイスをもらい、診断によって食事の内容を変えるなどの食事療法、ご飯の量を減らして体重のコントロールをする場合がある。また、退院時流動食であった利用者に、とろみ食、刻み食、おかゆ、普通食と状態に応じて支援し回復させた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには全員が一緒に囲める食卓があり、訪問時は利用者が職員と昼食の巻き寿司作りをしていた。その横にテレビとソファがあり、皆と一緒に落ち着かなくなった利用者にとって他の利用者と場面を変え気分を変えるのに役立っていた。壁には、昔の汽車の写真、利用者の家族が描いた絵画、浴室前には利用者が「ゆ」と糸で刺した手作り暖簾がかかり、キッチンからは食欲をそそる食事の仕度の音、匂い、窓外には花壇の花、近くの公園の緑など五感、季節感を感じられるホームである。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各部屋畳スペースがあり、多くの利用者は畳の上に布団を敷いて寝ている。写真、タンス、炬燵、鏡、家族が描いた絵画など使い慣れたものや好みのものでその人らしい部屋となっている。各部屋の窓の外にある物干しは、窓の敷居と同じ高さで利用者自ら布団干し、洗濯物干しがしやすく工夫されている。訪問時も天気がよく布団が干されていた。</p>		